



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

HARMACY NEWSBREAK

〔年頭所感〕一般社団法人保険薬局経営者連合会 会長 山村真一

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ新しい年2016年の幕開けです。皆様におかれましては清々しい気持ちで新年を迎えられ、また新たなる希望と抱負を抱いていらっしゃるかと存じます。

昨年は私たち保険薬局業界にとって、正に激震の年でした。院外処方せん調剤に基づく医薬分業の是非が白日の下に晒されたのです。しかし、それは来るべくして来た激震であって、私たちはその準備が不十分であったために激震化してしまったという側面もありました。ただ、そこで示された問題点、課題の多くのことは既知のものであって、実は十分予測可能でした。逆に医薬分業に対する一定の評価を聞くことができ、結果として私たちが今後、医薬分業をどのように進めていくべきかについて、国家、国民から多くの知見を得ることができたことは幸いだったと言えるかもしれません。



この議論の中で国から示された「患者のための薬局ビジョン」ですが、これは作成までの時間が十分ではなかったためか、院外処方箋調剤の充実に基づいた、病気になった後の、正に「患者のための」薬局ビジョンというコンセプトに絞られた形で描かれてしまいました。業界では概ね歓迎されているようですが、時代の潮流から考えれば、正しくは「国民のための」薬局ビジョンというタイトルであるべきでした。今、私たち薬局は、国民が医療機関にかかる前の、つまり患者になる前の未病、予防、生活習慣の改善までもを見据えたセルフメディケーションの段階で、薬局で薬学的なサービス、健康増進サービスを提供することで、国民を健康にして医療費の削減に貢献するよう舵を切ることを強く求められています。その姿は正に当会が目指す「川上戦略」でもあり、現在、国が求めている薬局の姿でもあるのです。

私たち一般社団法人 保険薬局経営者連合会（薬経連）は、主に独立系薬局の有志によって2008年に研究会として立ち上がり、2011年から一般社団法人として活動しております。また2013年には、業界内で切望されていた薬剤師によるシンクタンクである株式会社薬事政策研究所（薬研）を設立いたしました。

現在、当会は薬研と一丸となって、会員事業以外に主に3つの社会的事業と1つの共同研究を行っております。1つは2013年に開発されたプログラム「prairiedog」をさらに発展させ、有害事象の収集のみならず薬局経営に関わる様々なデータを解析し、情報発信する取り組み、2つ目は、薬研が発行しているマンスリーレポートにおいて各種データ解析、薬事関連の動向の解説など、シンクタンクとして発言できる体制の構築、そして3つ目は、健康保険組合と薬局とが連携する事で組合員の健康維持に関与する「保険者連携プログラム事業（HORP）」です。この保険者連携プログラム事業により医療費削減の実現、公費以外の薬局収入源の多様化、そして新たなる薬局顧客基盤の形成の実現を目指そうとしています。そしてアプライドセラピューティクス学会との共同研究は、長期処方患者において、患者登録制度を作ることで患者を長期間フォローアップし、患者アウトカムの評価を行うことを目的とした取り組みです。

今、薬局の姿は大きく変化することが求められています。未病、予防、セルフメディケーション、在宅、地域包括ケア、かかりつけ薬剤師、かかりつけ薬局...と、国家、国民から期待されている私たちへの要請も増えています。時代が変わっても変わらない美徳もありますが、現代のような変化の時代においては、あえて変化の先頭に立ち、その変化のイニシアティブを取るくらいの気概と具体的行動が必要であり、この動きを的確に判断し、少なくとも薬業界においては私たち薬局が時代の変化のハンドルを握ろうではありませんか。

最後に皆様の益々の成長と充実をお祈り申し上げて、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。